

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 211号

平成21年7月31日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で...

久慈農業改良普及センター 公式

検索

## 県北の農山漁村女性は元気いっぱいです

～ 県北の生活研究グループ活動交換会開催～

6月29日、久慈地方と二戸地方の生活研究グループ員等、116名が平庭山荘に集い「県北ブロック生活研究グループ活動交換会」が開催されました。

この会は、農山漁村の発展とグループ活動の充実を図ることを目的に平成19年度から久慈・二戸交互に開催されているものです。当日は最初に滝沢村の県農業農村指導士の上野カナエさんから、りんご園でのコンサートやグリーンツーリズム体験受け入れなどユニークな活動を地域の仲間と一緒にやっている様子がスライド上映で紹介されました。上野さんの常に前向きなライフスタイルに参加者は大変感銘を受けていました。

次に「わたしたちのグループ活動」をテーマに両地方のグループ員5人が、地域ぐるみ活動、郷土料理の伝承、消費者交流など様々なグループ活動の様子を発表しました。助言者から「この素晴らしい活動をもっとPRするべき」とのアドバイスがあり、参加者は自分達の活動に自信を深めると共に今後の活動に意欲を高めていたようです。

その後の風呂敷市では、各地区から持ち寄った自慢の農水産物や加工品をずらりと並べ、楽しい商品説明の後、販売交流が行なわれあっという間に完売するなど大いに盛り上がりました。

グループ員達は、今後もいきいきと暮らし、地域づくり活動に仲間と共に取り組んでいくことを確認し合うなど大変有意義で活気に満ちた有意義な交換会でした。



講師 上野カナエさん



風呂敷市

## ほうれんそう農家全戸巡回を開催

JA新いわて久慈営農経済センターは7月14日～23日にかけて管内市町村長による園芸農家激励巡回及び関係機関によるほうれんそう農家全戸巡回を行いました。

この巡回は生産者の皆さんに、ほうれんそうの作柄が例年不安定となる夏場に関係機関一丸となって支援するため行われたものです。生産者に無理をせず元気にこの夏を乗り切っていただくとともに、遮光資材の利用や生育中灌水など高温対策の実施によって生産拡大と所得向上に取り組んでいただきたいとの激励文が訪問した首長並びに関係者より手渡されました。

ここ数年は不況による消費の低迷、資材価格の高騰など農家経営にとって厳しい状況が続いており、さらには消費者の食の安全・安心に対する関心と要求が高まっています。久慈地方のほうれんそうについても、これまで培った技術に高温対策や連作障害対策を加え、ベテランから担い手、新規就農者まで地域が一体となった総合力で、この状況を打開し消費者の要望に応えていく産地へと発展していくことが期待されています。



ほうれんそうハウスを巡回

## ヤマブドウ栽培・加工副産物の活用に向けて

～「ヤマブドウまるごと利用したアンチエイジング素材の開発」現地検討会開催～

7月9日、久慈地区合同庁舎および洋野町のヤマブドウ圃場において、共同研究「ヤマブドウまるごと利用したアンチエイジング素材の開発」現地検討会が開催されました。

本研究は、ヤマブドウの栽培・加工副産物からアンチエイジング（老化防止）の機能性を持った素材を開発する事を目的に、平成21年度から3年間実施するものです。岩手県工業技術センターを中核機関とし、ヤエガキ醗酵技研(株)、東京農工大学、岩手大学、(株)佐幸本店、当管内の生産者で構成する久慈地方ヤマブドウ振興協議会が共同で検討を進めることとしています。

今回の検討会では、共同研究機関の研究テーマを紹介し、取り組み事項を確認し合いました。また、ヤマブドウの栽培ほ場を研修し、原材料のヤマブドウを実際に見てもらいました。

原材料生産から利用加工のシステム確立に向けて、生産者、試験研究機関、企業が一体となった、新たな取り組みが始まりました。



共同研究の取組事項を確認



ヤマブドウの生産圃場を視察

## 八戸に売り込む「久慈のスプレー菊」

久慈地区では近年スプレー菊の生産が伸びています。

その要因のひとつとして、八戸市場と行っている相対取引が挙げられます。価格を安定させるため、あらかじめ出荷数量を市場に伝え、各生産者が出荷計画に向けて栽培します。

6月22日と25日には、品質の安定と相対取引計画数量の確保をねらいに、普代村から洋野町種市まで市町村を越えて相互巡回を行いました。

農繁期にもかかわらず多くの生産者が出席し、現在までの生育状況と今後の栽培上の注意点を確認しました。

久慈地区のスプレー菊生産者は、新品種の比較検討や点滴

かん水チューブの導入など、新しい技術を積極的に吸収しており、視察活動も活発に行っています。

系統出荷に加えて産直も大きな収入源であり、スプレー菊の添え花とする新品目の探索にも意欲的です。

これからも生産者のネットワークを生かしながら、産地全体で有利な販売ができるよう取り組んでいきます。



相互巡回で意見交換

## 技 術 情 報

### ほうれんそう

夏の高温期はハウスビニールをできるだけ開放して換気に努めましょう。

遮光資材を積極的に活用しましょう。

べと病の予防散布の徹底、シロオビノメイガにも要注意です。

9月の出荷量を確保するため、タネをまいてからお盆を迎えましょう。

#### 1. 夏期の高温対策

- ・ハウスの側面ビニール、前後のツマ面ビニールを完全に開放し、換気に努めましょう。
- ・収穫時～播種時には、遮光幕を掛けてハウス内の温度を下げましょう(発芽を確認したら夕方外します)。資材は、ダイオシート(黒、遮光率 80%)やミラクール(白、遮光率 70%)等を用います。また、生育中に高温が続く場合は、遮光率 30%程度の寒冷紗やクールホワイト等で遮光しましょう。逆に、やませなどで日射量が少ない日が続く場合は、外して徒長しないようにしますが、そのような天気から一転して暑くなった場合は「葉焼け」や「しおれ」、「萎凋病」が多発しますので、早めに遮光することが大切です。

#### 2. シロオビノメイガに注意!

- ・8月以降シロオビノメイガが多発する時期をむかえます。若齢幼虫は新葉を、中～老齢幼虫は展開葉を食害します。ハウス内外をよく観察し、薬剤散布が遅れないように気をつけましょう。

#### 3. べと病対策

- ・お盆すぎからの秋雨の時期には、べと病が再発してきますので、ハウスの換気や薬剤の予防散布を的確に行い、発生を未然に防止しましょう。

#### 4. 9月は高値の時期です

- ・例年9月の収量が大きく落ち込みます。今年は、お盆前にもしっかりと種子(タネ)をまき、9月の高値を期待しながらお盆をむかえましょう。
- ・収量がハウス(30坪)当り 10 ケース以下に減少してくるようならば、クロルピクリン錠剤等の土壌消毒を実施し、9月の収量アップを目指しましょう。(20ケース以上の収量も可能です。)

## 水 稲

低温に備えて深水管理にし、稲を低温から守りましょう。

穂いもち予防のため粒剤を施用しましょう(いわてっこ以外の品種)

斑点米カメムシ類の防除(草刈と薬剤防除)をきちんと行いましょう。

#### 1 冷害回避のための水管理(減数分裂期)

7月下旬～8月上旬には、低温に最も弱い「減数分裂期」を迎えます。この時期に低温に当たると不稔が発生しますので、水深10cm以上を基本とし、特に17℃以下の低温が予想される場合には15cm以上の深水で穂を守りましょう。

#### 2 登熟を低下させないための水管理

出穂後は「間断かんがい」とし、落水開始時期は出穂後はおおむね30～35日頃を目安にします。

#### 3 斑点米カメムシ類の防除

- (1) 7月中に水田畦畔、農道等の草刈りを地域一斉に行い、カメムシの巣を無くしましょう。  
水稲の出穂後に草刈りをすると、田んぼにカメムシを追い込む恐れがありますので、水田周辺は7月中から雑草の穂を出さないような管理を心がけましょう。  
畜産農家の皆様も、2番草収穫にあたっては水田周辺部の牧草地から始める等、できるだけこの時期に行い、斑点米の被害軽減にご協力をお願いします。
- (2) 薬剤防除は粉剤・乳剤の場合が「穂揃い1週間後」、粒剤の場合は「穂揃い～穂い1週間後」
- (3) ダントツ剤、スタークル剤はミツバチに対して毒性が強いため、ミツバチの巣箱が近隣にある場合は、他の薬剤を選択しましょう。

畦畔に除草剤を散布する場合は「畦畔」に登録があるものを選びます!!



## 果 樹

### ヤマブドウの枝管理

果実品質向上、隔年結果防止のために、それぞれの葉に日があたることが重要です。枝が絡み合い、混み合っているときは、巻きひげをはずし、枝を下垂させるようにしましょう。それでも混み合う場合には1房あたり葉が4～5枚程度残るように枝を切り落としましょう。房の周りの葉は果実の成熟等に重要ですので、落葉までそのままにしましょう。

散布前に農薬の収穫前日数、使用回数を確認しましょう

収穫の比較的早い、ももやりんご、なしの早生種などの農薬散布時には特に気をつけましょう。ラベルを確認し、収穫前のいつまで農薬の散布可能か、これまで何回、同一成分の農薬を散布したか確認しましょう。

除草剤にも農薬の使用制限がありますので、果樹類または各作目に登録があるか、いつまで使用か等、確認の上、使用してください。

< 果樹に登録がある除草剤の例 >

| 商品名                            | 適用樹種                              | 使用時期     | 使用回数                  |
|--------------------------------|-----------------------------------|----------|-----------------------|
| ラウンドアップハイロード<br>ラウンドアップマックスロード | 果樹類                               | 収穫7日前まで  | 3回(グリホサートを含む剤の総使用回数)  |
| タッチダウンiQ                       | 果樹類                               | 収穫5日前まで  |                       |
| バスタ液剤                          | りんご                               | 収穫21日前まで | 3回(グルホシネートを含む剤の総使用回数) |
|                                | ぶどう、なし、おうとう、かき、もも、うめ、ネクタリン、ブルーベリー | 収穫前日まで   |                       |
|                                | くり                                | 収穫30日前まで |                       |

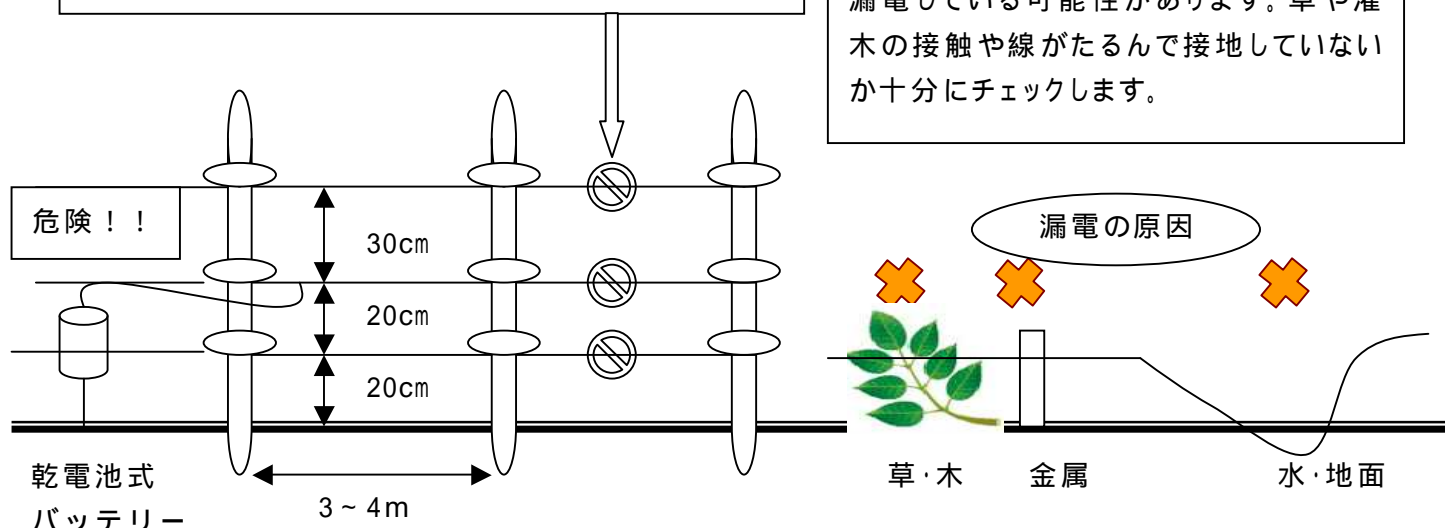
## 飼 料 作

### デントコーン畑の熊対策

【電気柵を正しく設置して、熊の進入を防ぎましょう。】

設置は、デントコーンの出穂前に行います。

緊張具でたるまないようポリワイヤーを張りましょう。



**定期的な漏電チェックを!!!**  
 定期的にデジタルボルトメーター等で電圧をチェックします。通常、5～6千ボルトですが、電圧が下がっている場合には、漏電している可能性があります。草や灌木の接触や線がたるんで接地していないか十分にチェックします。

林道や農道に面している場合は、注意喚起の看板を立てましょう。  
 詳しくは担当(佐々木・佐藤)まで